ミャンマー国人身取引被害者自立支援のための能力向上プロジェクト

No.8/ 2013 年 2 月 18 日

ヤンゴンからミンガラーバー

涼しかった季節もあっという間に終わりがきたようで、暑い日々が戻ってきました。これからヤンゴンで最も暑い季節に突入です！

モーラミャイン被害者短期滞在施設視察（1月28-29日）

モン州の州都モーラミャインは、かつて英領ビルマの都でもあった、人口約30万人の古い街並みの残る静かな都市です。モーラミャイン職業訓練校はタイから送還される人身取引被害者の短期受け入れ所となっており、被害者受け入れを担当している職業訓練校職員、社会福祉局（DSW）職員、反人身取引タスクフォース（ATTF）職員が現状を丁寧に説明して下さった後、専門家との意見交換を行いました。

左からモン州 DSW 副所長、反人身取引ﾀｽｸﾌｫｰｽ（警察）

2012年は4回にわたって合計56名の被害者を受け入れ、うち35名が男性で年々男性被害者が増加しているそうです。被害者は訓練校に3日間滞在し、帰郷の準備やIDカード取得などの手続きを行います。その間ATTFは被害者から加害者情報などの聞き取りを行っています。

ATTFによると、2006年から現在まででモン州で訴追に至ったケースは26件。しかし2012年は、人身取引加害者の逮捕件数が１件もなかったそうです。理由を尋ねると、ブローカーの手口が巧妙になっているようで、被害者に情報だけ与えて一人で移動させる、保護された場合は「自分一人で行った」と言うように打ち合わせができているようだという話でした。

多い時は一度に20人くらいの被害者が滞在するため、校長先生、講師数名、3人の事務スタッフが対応するほか、州のDSW（社会福祉事務所）のスタッフやボランティアにも応援にきてもらうそうです。

写真左：職業訓練校、右：被害者が滞在するスペース

モーラミャイン職業訓練校は築100年以上の風格のあるコロニアル調の建物ですが、かなり老朽化しているにもかかわらず修復されておらず、天井や壁に大きな穴が多数あり雨季には雨漏りがして大変とのこと。現在は裁縫、手工芸、お菓子作りなど10以上のコースが随時開催されており、プロジェクトが訪問した時もたくさんの生徒が学んでいました。

被害者がタイから帰還する際は校舎2階と3階の広いスペースに滞在しますが、被害者が居ない時期は他の用途に使用されておらずハトやこうもりの糞が散漫していて、被害者受け入れの態勢の整備と充実が早急に必要であると感じました。

タスクフォース・ミーティングの開催（1/26,2/16）

1、2月は、2月25日から始まるTOT（講師養成講座）の準備のため、コーディネーターや講師も含めた拡大タスクフォース・ミーティングを行いました。プログラムは、大きく3つのパート（人身取引に関する知識、カウンセリングスキル、他機関との連携方法）に分かれているのですが、それぞれのパートに講師のほかに全体の担当をするコーディネーターが付くことになっています。

2回のタスクフォース・ミーティングの間には、各コーディネーターとのワークショップを行い、あっという間に1か月が経ったという感じです。いいTOTが実施できるよう、今日も最後の準備をしています。次回のニュースレターではTOTのご報告をする予定です。

プロジェクト関係者の紹介

今回はプロジェクトマネジャーのThin Thin Nweさんをご紹介します。子育てをしながら長年福祉の分野で働いてきた元ワーキングマザーで、今は退職した夫や家族が住むヤンゴンに過密スケジュールの中、ネピドーからトンボ返りの日々が続いているようです。

現在は社会福祉局のリハビリテーション課副課長で、1985年から28年間社会福祉局に勤務されているそうです。人身取引対策には7年前からかかわってきており、被害者保護に取り組んでいる国内外の機関や団体とのやり取りを一手に引き受けています。海外の会議へ参加することも多く、大変多忙のため、毎月1回のタスクフォース会議もヤンゴンで週末に実施しています。

タスクフォース会議では参加者の意見を素早く取りまとめたり、必要に応じて通訳もしてくれたりとフル回転。おかげで多くの討議項目が次々と進み、会議が長引くことがありません。終わるやいなや次の会議があるからと急いで帰られることも多く、次々と仕事をこなしていくパワーにいつも圧倒されています。

本通信は、プロジェクトの進捗状況および周辺情報をお知らせするために専門家の見聞をお送りしています。JICA およびプロジェクトのカウンターパートの見解ではありません。禁転載